

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202296		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム胡桃(くるみ)		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町4522		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナ禍で中止となるイベントが多くありましたが、毎年夏祭りや餅つき大会等様々なイベントを通して地域の方にも参加して頂き地域に開かれた高齢者介護に理解を頂いています。また四季に合わせた壁紙や玄関に創作を行い利用者様を初めご家族様ご近所様に喜んで頂ける様努めています。笑顔で明るいアットホームな事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るいアットホームな雰囲気のあるホームで、日頃から職員や入居者が近隣住民と挨拶を交わしたり地域の方がホームに気軽に立ち寄りするほか、敬老会や運動会などの地域行事へ積極的に参加し交流を深めている。ホームでは近隣住民からの魚や野菜などの差し入れを地元の食材として提供するほか、入居者と職員と一緒に手づくりコロッケを作ったり、ホーム裏庭で収穫したゴーヤをサラダにするなど旬の食材を用いて食事内容を充実している。コロナ禍の影響でホームでの様々な取り組みを制限している中、入居者がホームにいながら旅行気分や名産物を味わってもらえるよう共用空間の壁面に日本地図を制作して掲示し、全国47都道府県各地の名産品を随時提供している。管理者は職員それぞれが持つスキルを見極めながらチームで入居者を支えられるよう指導力を発揮しており、勤務経験の長さや定着率の高さに繋がっている。職員間のコミュニケーションも円滑で、職員同士が調整しながら希望休や有給休暇も取得できている。更に認知症ケア技法としてユマニチュードを取り入れるなど、手厚い入居者支援に今後も期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム胡桃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員で共有し、明るく、楽しく過ごして頂けるように努めており一緒に楽しみながらケアにあたっています。昨年度は理念についての研修も行っています。	ホーム理念は玄関入口に掲示し、日々の実践を通して職員間での共有に繋げている。管理者は理念についての職員研修を行うことで理念浸透を図り、理念作成の際には職員も関わることで全職員が理念を共有し、同じ目的に向かって入居者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が気軽にホームへ来所して下さいます。困りごとの相談や協力の要請等もあり地域の皆様との繋がりを大切にしています。また魚や野菜などのおすそ分けをして下さり住宅の隣近所のように受け入れて下さっています。	ホームでは地域の方が気軽に立ち寄れるよう日頃から職員や入居者との挨拶や、敬老会や運動会などの地域行事への参加を通して地域との交流を深めている。近隣住民からの魚や野菜の差し入れなどもあり、地域の一員としてのこれまでの繋がりが拡充している。コロナ禍により従前の地域交流を制限している中、ホーム内でできることへの取り組みを推進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防の観点からイベントを開催できませんでしたが、例年は夏祭りや餅つき大会、消防訓練に参加して頂き交流しながら理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員や利用者様の状況報告、研修や身体拘束・事故等についての報告やその他意見交換などを行っています。今年度はコロナ禍の為、文書を作成し郵便にて照会対応を行っています。	運営推進会議は入居者・家族・地域住民代表、地域包括支援センター職員、知見者、ホーム職員を構成メンバーとしている。コロナ禍にある現在、運営推進会議は書面会議とし、入居者状況・研修参加・身体拘束・事故に関する報告等は文書にし郵送にて各委員に諮り、情報交換・意見等の把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の方への定期的な報告や突発的な事案についても報告、連絡を行いアドバイス等頂きながら協力体制を構築に努めています。	市担当者へ身体拘束に該当する行為の確認やホームの困り事の相談を行うなど、日頃から連絡を取り最新の情報を入手するなどし協力関係を築いている。また、佐世保市グループホーム連絡協議会の役員として各種研修に携わり、行政とも連携・協働している。尚、コロナ禍の影響により、今年度の佐世保市グループホーム連絡協議会での活動は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での情報交換や情報を共有し、身体拘束をしないサービス提供を心掛けています。また身体拘束について疑問点等が生じた場合行政へ連絡をとりアドバイスを頂くようにしています。また身体拘束の研修へも参加しています。	身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、委員会で協議した内容は運営推進会議にも報告している。職員は身体拘束や虐待防止に関する社内研修や、グループホーム連絡協議会などが実施する外部研修にも参加している。地域で入居者を見守ってもらえるよう近隣住民や交番とも連携することで見守りの目が行き届いており、日中のホームでの施錠も行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について共通の認識を共有できるよう研修会等積極的に参加しています。各職員間で情報や知識を共有できるように努め職員間で虐待を見過ごされないように注意喚起できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースは管理者、支援専門員が対応する事となっています。種類や内容について理解を深める為研修があった場合は参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、その他改正等の際は時間をとり分かりやすく説明するように努めています。利用料金、その他についても管理者が説明を行い理解・納得頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に各種相談窓口について説明し玄関にも意見箱を設置しています。また運営推進会議、管理者会議、胡桃会議等にて反映させるように努めており、ご家族様にはお便りや電話連絡など行いご報告やご意見を尋ねるようにしています。	ホーム玄関には意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に外部の苦情窓口を記載し、入居時に家族へ説明している。家族からの意見や要望は申し送りノートのほかにLINEを通じて職員間で共有できるしくみを構築している。コロナ禍の影響を踏まえ、今後はオンラインで家族と面会ができるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い代表者、統括部長、管理者らとすべての職員が参加し職員1人1人が意見や提案ができるような場を設けています。また日頃から意見や提案を聞いており、また聞きやすい環境に努めています。	ホームは勤務経験の長い職員が多く、定着率も高い。管理者は職員が持つスキルを見極めながらチームで入居者を支えられるよう指導力を発揮しており、職員から管理者へ意見や要望を伝えやすい職場である。また、職員間のコミュニケーションも円滑で、職員間で調整しながら希望休や有給休暇も取得できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法定基準に従い勤務状況を把握し労働時間を定めており、各職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備について代表者に意見具甲されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得できる体制を整えており、法人内外の研修を積極的に受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は中止となるが多かったが、グループホーム協議会の本部に所属しており、開催する研修や勉強会に参加しサービスの向上に努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや生活歴を確認の上、傾聴しながらしながらお話をさせて頂いています。また意思の疎通が難しい方でもその表情や発語などを探りながら安心して頂けるよう努め職員全員で共有できるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様にはもちろんの事、ご家族様が抱える問題や不安要望に沿えるように誠意をもって耳を傾け情報収集とそのアセスメントを行い利用者様のニーズに沿ったサービス提供ができ、その評価が正確にできるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応が必要な相談者様には可能な対応を柔軟に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の出来ることを職員全員で考え家庭で過ごしているような空間を大切に、同じ時間を過ごしているという関係を築くように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはお便りや電話で連絡を都度行い共に支え合うように協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出が難しいですが、行きつけの床屋へご家族様と出掛けたり、お友達が面会にも来られています。思い出の場所などのお尋ねをし傾聴しながら思い返して頂くよう支援も行っています。	職員は入居者本人にとっての思い出の場所に出向いたり、知人に年賀状や暑中見舞いを出すなどこれまでの馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。現在はコロナ禍の影響により友人や知人との面会を制限しているが、本人の希望に沿ってできる範囲で関係継続の支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が連携し情報を共有しながら性格や相性などを把握し共通の話題や趣味を取り入れながら利用者様同士の会話が成立し楽しく過ごせるような場所や支援を提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もまたお伺いします。とおっしゃられるご家族様もおり、状況報告もして下さいます。終了後もご相談があれば利用者様やご家族様のお話を傾聴するよう心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人の思いやご本人様らしい生活のあり方について職員間で検討しています。意思表示が困難な利用者様にはユマニチュードの見る、話す、触れる、立つを意識したケアに努め動作時にもオートフィールドバックを取り入れ昨年度はその為の研修も行っています。	ホームでは認知症ケア技法としてユマニチュードを取り入れ、職員が入居者と向き合い・見る・話す・触れる・立つを意識したケアを実践し、入居者の意向の把握に努めている。知覚・言語・感覚によるコミュニケーションに基づいたケアで、職員は行っているケアの内容が入居者に分かるよう言葉で伝え支援している。前年度はユマニチュードに関する職員研修も実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時より情報収集を行いご本人様の生活歴、家族構成、これまでを把握しサービスの内容やその達成についても毎月評価を行い経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日を穏やかに過ごせるよう身体機能が維持されるよう個々にあった生活が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時よりご本人様やご家族様のお話をお尋ねし、まずは暫定で計画書を作成。状況を確認し共有しながら支援します。意見を出し合い、サービスの内容を再検討し実施後、新たに介護計画を作成しています。毎月末にはモニタリングを行い介護計画の達成度について検討しています。	介護計画は常勤の介護支援専門員が介護現場に入って入居者の様子を確認した上で家族の要望を聞き取り、職員とも話し合い計画を立案している。月末に実施するモニタリングにおいて、立案した介護計画の目標が達成できているか全職員が関わり評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と実践を行うように努めています。またケア中の状況を記録に残しご本人様の状態、状況が1冊のファイルで分かるように個別にファイルを準備しています。気づきがある度申し送りし職員で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランに沿った支援を行うのはもちろんですが、柔軟な支援が出来るよう職員同士でフォロー仕合い対応しています。予想外な出来事もあるため臨機応変な支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ禍で厳しい現状ですが地域住民の方との交流や民生委員様や区長様と意見交換する機会を設け安全で豊かな暮らしが出来るよう努めています。現在もよく挨拶を交わすので交流は切らしていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医が訪問診療に来て下さっています。急変時や夜間等も対応して下さります。それ以外を希望される方はご家族様にも協力して頂き職員と連携して受診対応を行っています。	ホームかかりつけ医による定期的な訪問診療があり、医療機関への受診の際には職員が入居者の健康管理票を持参し、医師に現状を伝えている。また、必要に応じて家族とも協力して受診に同行している。薬の変更や受診結果等は家族にも伝えるなど家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と一緒に情報共有をしながら看護職員が健康管理票を記入し記録を残しています。またホームのかかりつけ医にも毎月確認して頂き急な変化があっても対応できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行っています。また退院時にはソーシャルワーカー、ご家族様と協力しながら早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針の説明を行い同意を得ており、記入して頂いています。また重度化された場合にも意見を踏まえて職員と協力医と密に連携して安心して最後を迎えることができるよう心掛けています。	入居時に家族へ看取りに関するホームの方針を説明し、入居者が看取り期に至った場合は再度家族へ意向を確認し支援している。ホームは医療機関と連携し、入居者の急変時や終末期に対応できるよう協力関係を構築している。	今後、入居者への看取り支援を進める上で、看取りに関するマニュアルを整備するとともに、職員への研修実施を通じて看取り期を迎えた入居者の介護においても引き続きその方の自己決定と自立支援を支えていくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内や外部の研修又は消防の方より直接指導を頂き実践を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、災害想定のもと避難訓練を実施し年に一度は消防消防立会いの下、総合避難訓練を実施しています。今年度はコロナ禍の為地域の方とはできませんでしたが、毎年協力して下さっています。対策に関しては毎日夕方施設内外の確認をし記録をつけています。	訓練では管理者が独自に作成した防災成績表を活用し、参加した職員による自己採点や改善点を他の職員とも共有することで、有事における迅速な対応に繋げている。今年度は大型台風接近に伴い、避難車両の準備や窓への養生テープの貼付、浴槽に水を張る、非常食の増量、夜勤2名体制にするなど台風に対応した準備を行った。例年は消防訓練に民生委員や近隣住民が参加し、避難後の入居者見守り等の協力を得ているが、今年度の避難訓練はコロナ禍のため地域住民の参加は自粛した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として日々気を付けるようにしています。家庭的な面も同時に大切にしているため親しみある言葉や地元の方言を使いながら声掛けや対応を行っています。	ホームだより等に掲載する入居者の写真は家族の同意を得ている。ホームでは入居者がホームを我が家と思ってもらえるよう方言を使用し、親しみを込めた言葉掛けや家族の提案による入居者の呼び名を使うなど、入居者が穏やかに楽しく過ごせるよう配慮している。職員は接遇マナー研修を受講するなど、入居者を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方もおられますが出来るだけ自己決定を促す支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々のペースを大切に希望に沿って過ごせるような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でしっかり鏡を見ながら整容される方もいます。コロナ禍で回数が減っていますが訪問カットにも来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て楽しんだり季節や祝い事等の食事に力をいれています。また施設に植えた野菜を収穫し調理をして提供し楽しんで頂けるように努めています。調理の下ごしらえやテーブル拭き、配膳、下膳と出来る事を協力して頂いています。	入居者と職員と一緒に手づくりコロケを作ったり、ホーム裏庭で栽培し収穫したゴーヤをサラダにして食卓に並べるなど、旬の食材を用いて食事を充実し提供している。職員は入居者が食事を楽しめるよう弁当・うな重・おせち・オードブルなど工夫している。また、入居者本人の残存機能や潜在能力を活用し料理の下ごしらえや配膳・下膳と一緒にするなど、生活の活性化に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定での把握や排尿、排便チェック、血液検査等を考慮しながら個々に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。自立の方は声掛け促し見守り等行い困難な方はブラッシング介助を行って清潔を保ち肺炎予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方は、トイレ誘導を定期的に行いホワイトボードに記入し排泄状況を毎日記録しています。	職員は入居者に対してトイレ誘導を行った際、排泄状況等をホワイトボードに記入することで他の職員と情報を共有している。日中は可能な限りトイレでの排泄を入居者へ促し、本人の排泄パターンを考慮しその方の状態に応じて夜間帯のみオムツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録をとっています。ヨーグルトや牛乳野菜などの提供や毎日の体操の実施。それでも排泄が無い場合は処方されている下剤を処方し排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火曜、木曜、土曜、日曜としていますが入居者様の希望があれば臨機応変に対応できます。入浴剤や季節に沿った入浴を提供しています。	ホームでは火・木・土・日曜を入浴日として設定しているが、入居者本人が希望すれば設定日以外でも入浴できるよう対応している。管理者の提案により、脱衣所に設置している手すりを更に追加したことで入居者のよりスムーズな立位保持に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限りリビングにて過ごして頂いていますが、横になりたいと希望される方の対応は行っています。入床時間は個々に合わせ支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される処方箋を個々のファイルに綴っておりいつでも確認出来るようにしています。変更等があれば申し送りや報告ノートに記入し全員が周知出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、庭の畑の手入れや収穫、家事支援など個々の得意分野を生かしながら役割を持って頂き張り合いを感じて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、昨年まで出来ていたことが全くなり外出もできていません。その中で何が出来るかを考え、今出来た事は、壁に日本地図を作製し47都道府県の名産を提供しながら旅行気分やその土地の食事を提供できるように工夫しました。	コロナ禍の影響により地域行事への参加や人が集まるような場所への外出を制限しているが、職員は個別に近隣を散歩したり、桜の花見に出掛けるなど外気や日光に触れることで、可能な限り入居者の気分転換を図っている。また、家族との外出の際には入居者の体調を伝えたり、事前に排便コントロールを行うなど外出が楽しいものとなるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が理解が難しくお金を所持される方はいません。ご本人様やご家族様からお預かりしたお金はきちんと管理し必要な場合は対応しています。またお金や通帳のお尋ねがあった場合は不安を感じないようにも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され掛けたりかけられたりされています。また電話がかかってきた場合やかけたい時には取り次いでいます。手紙を書かれる方はいませんが年賀状などが届いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をしており特に外部から訪問して来られても排泄等の匂いがないように努めています。また壁を使って季節に応じた行事や雰囲気を楽しめるように作成しています。暑さや寒さの空調や空気清浄器を使い居心地良く生活出来よう工夫しています。	コロナ禍の影響によりホームでの様々な取り組みを自粛・制限している中、共用空間の壁面に日本地図を制作して掲示し、全国47都道府県それぞれの名産品を随時提供することで入居者がホームにいなながら旅行気分や名産物を味わってもらえるよう工夫しており、その様子を収めた写真を日本地図上に貼付している。ホーム内の定期清掃のほか、アルコール消毒液の設置や職員による食事介助時のフェースシールドの着用など感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアーには大型のソファールリビング用テーブルを設置しておりゆったりと過ごせるようにしています。また一人になりたい方は居室にてテレビを観たりと思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご家族様にも説明し居室には、使い慣れた家具や布団、写真や思い出の品が持ち込まれ違和感なく過ごせるように配慮しています。	居室への持ち込み品について、ホームでは特に制限は設けておらず、入居者の思い出の写真や家具などの使い慣れた物、好みの物が持ち込まれている。また、入居者の信仰心に配慮し、入居前の宗教的関わりについても継続できるよう取り組んでいる。職員は居室を朝から清掃することで清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方その方の状態に出来るだけ合わせ「出来ること」「分かること」を考え見守りながら安全に過ごせ自立した生活が出来るように心掛けています。		